



大分合同新聞  
2023年  
10月3日(火)  
朝刊 23面

# 続く暑さ「個人の判断」主流に

# 「衣替え」に変化



①10月を迎えても夏服で登校する中学生。冬服はわずかだった＝2日、臼杵市江無田、撮影・江藤成吾  
②多様な服装で仕事をする銀行員＝2日、大分市王子中町



「衣替え」に変化が起きている。かつては10月に入ると同時に夏服から冬服に替わるのが通例だったが、近年は一人一人が選ぶ方式が主流になった。地球温暖化で暑さが長引き、服装の多様化もあって見直しの動きが広まった。県内の学校や職場では「その日の気温や体調に合わせて決められる」と歓迎する声がかかれた。

臼杵市江無田の北中(24人)は2日、ほとんどの生徒が夏服で登校した。3年の岩尾彩衣さん(15)は「まだ暑いので夏服にした。それぞれの判断で選べるのがいい」。

この日の朝は放射冷却の影響で気温が下がった。3年の井沢那奈さん(14)は「家を出たら寒かったので、冬服に着替えた」と話した。同校は3年前から移行期間をなくし、一年中どちらの制服も認めている。教室にエアコンが設置されたことで、生徒によって暑さ寒さの感じ方が異なってきたことも理由という。

豊和銀行(大分市)は9月に行員の服装を見直し、**亀井真也校長(59)**は「生徒が自分自身で服を選ぶ判断力を身に付けてほしい」と教育上の効果を期待する。

## 移行期間設けぬケースも

同市王子中町の本店では2日、半袖の男性や長袖の女性らが同じ部屋で業務をこなした。人事部の田中豊明副部長(52)は「服装を強制することなく、従業員の多様な価値観を尊重していきたい」と述べた。

た。軽装を促す「クールビズ」の期間設定をやめ、年間を通して男性はネクタイ着用を任意に。女性は半袖・長袖の制服かスーツを自由に選べるようにした。

- 〔問①〕これまでの「衣替え」は、九州では一般的に何月と何月に行われてきましたか。
- 〔問②〕臼杵市の北中学校は移行期間もなくし、1年中、夏・冬どちらの制服も認めています。地球温暖化の理由のほか、学校設備の変化を理由に挙げています。何でしょうか。
- 〔問③〕地球温暖化によって変化した生活様式やルールはほかにありますか。話し合ってみよう。